

自立型 優勝
疾風



羽木翔吾(四日市中央工業高校ロボット研究部)



全国大会
10kg級

全日本ロボット相撲大会

ラジコン型 優勝
四中工機械錦



藤崎智久(四日市中央工業高校ロボット研究部)

「ロボマガ」記者・城井田 勝仁
きいだ かつひと

過渡期にある10kg級相撲ロボットは百花繚乱!

10kg級は昨年から正式な種目となった。前回は3kg級の全国大会とともに実施されていたが、第2回目となる今大会は、単独での開催となった。開催場所も両国国技館ではなく、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)となり、3kg級よりも一足早い11月21日(日)に全国優勝が争われた。

10kg級では、相撲ロボットの制限が大幅に緩和されている。20cm四方だった大きさは、30cm四方まで許されるようになった。高さに関して制限がないのは、従来どおりである。ロボットの重量は、大会名からもわかるとおり、10kgまで許されることとなった。

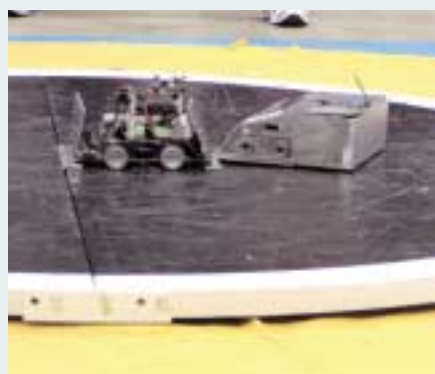
相撲ロボットが大型化したことにもない、土俵も従来の直径154cmから227cmと、見た目にはわかるほど広がった。3kg級では1枚の鉄板で構成されていた土俵は、10kg級では4枚の鋼板の組み合わせで作られる。その土俵に磁石で吸着することに

より、実際以上の重さを生み出しながら戦う様子は3kg級と変わらないが、土俵とロボットが大きく重くなったことで、その迫力は3kg級を上回る。

参加数がまだ多くない10kg級は、地区大会が設けられず、全国大会のみで争われる。しかし、3kg級でおなじみの顔も多く見られ、そのレベルは決して3kg級に劣るものではない。それどころか、ともすれば

画一的となりがちな相撲ロボットの外観も多種多様で、見た目にもとても楽しめた。

10kg級は、大きな土俵での大きな相撲ロボット同士の戦いなので、遠目からでも十分にその様子がわかる。理屈ぬきを楽しむところもあるので、より多くの人に観戦してもらいたいものだ。もちろん、観戦は無料だ。



自立型決勝戦「舞衣ちゃん」vs「疾風」



ラジコン型決勝戦「四中工機械錦」vs「SGDX」